

顔面が動かない!? ～顔面神経麻痺について～

川口市立医療センター
耳鼻咽喉科 **岸 博行**



ある日突然、口から水がこぼれた、顔を洗った際に片眼だけ水が入ったという症状で受診されます。耳や喉が痛いといった症状に比べマイナーではありますが、耳鼻咽喉科医が診察しないといけない病気の一つです。

発症のメカニズムは側頭部の骨の中を走行する顔面神経が何らかの原因で炎症をおこし神経がむくむと、周囲の硬い骨によって首を締められるような状態になって麻痺が進行するとされています。先程何らかの原因と書きましたが、いわゆる“みずぼうそう”を引き起こすウイルスが原因の場合はハント症候群、検査したけれども原因が特定できない場合をベル麻痺(特発性)と診断しています。一般的にベル麻痺がハント症候群より多く、治りやすいといわれています。

麻痺の程度は額～眼のまわり～頬、口唇周囲の筋肉の動きで判断しますが、麻痺の自覚は首が絞められている状況ですので、ただちにその状態を解除させなければなりません。早急に治療しない場合、顔の左右差が顕著になって、麻痺が残存することもあります。

治療にはステロイドや抗ウイルス薬を用いますが、急に発症する病気ですので早期に治療することが重要です。また重症例にはより多くのステロイドや抗ウイルス薬が必要になりますので、場合によって入院加療が必要です。発症してしまった場合はただちに耳鼻咽喉科を受診し、専門医の指示に従って速やかに治療を受けることがとても大事です。

3月は自殺対策強化月間です

就職や転勤、転居など、生活環境が大きく変動し、自殺者数が増加する傾向にある3月を「自殺対策強化月間」と定め、国、都道府県、市町村、関係機関・団体などが連携し自殺予防に取り組むこととしています。市では「大切なあなたの命は宝物」をキャッチフレーズにして横断幕を駅などに掲示し、普及啓発しています。



自殺者数の現状

平成31・令和元年中の市内の自殺者数は84人で、自殺死亡率は人口10万人あたり13.9人でした。全国の自殺死亡率は16.0人、埼玉県は14.9人です。

悩みを抱えた人には?

悩みを抱えた人を支援するために、身近な人(ゲートキーパー)の力が必要です。市では自殺予防の講座として、ゲートキーパー研修を実施しています。ゲートキーパーとは、悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る人です。

●日頃からできるメンタルチェック

パソコンや携帯電話から、いつでも気軽にストレスチェックができる「こころの体温計」を実施しています。悩みが大きくなる前に、ご自身や周りのかたの「こころの健康管理」にお役立てください。

また、チェック後には相談窓口が案内されるので、一人で悩まず、まずは、**川口市 こころの体温計** **検索** 

問 疾病対策課 ☎048-423-6748 FAX048-423-8852

ワンポイント手話講座

今月は「熱い」「冷たい」を紹介します。似たような表現ですので、表情もつけて表してみましょう。

熱い

右手を下から勢いよく引き上げ、そのまま親指と人差し指で耳たぶを挟みます。



冷たい

冷たいものに触れて驚くように、右手のひらを下に向けて、勢いよく引き上げます。



問 障害福祉課
☎048-259-7926
FAX048-259-7943



挑戦する喜びを噛みしめて

川口市立高等学校
定時制課程総合学科4年生 **佐藤 賢二さん**

川口市立高等学校定時制。今年の3月に卒業を迎える生徒たちは、75年の伝統を引き継いだ泉陽高等学校定時制最後の入学者だ。そんな卒業生の一人に、若かりし頃に断念した夢に再度挑戦している御年72歳の生徒がいる。

放送技術に関心を持って10代。将来は無線設備を操作・監督する放送局の無線従事者として働きたいと強く思い、電気関係の専門学校に進学した。しかし、「高度な数学の知識が求められる講義についていけなかった。これまでしっかりと勉強してこなかったせいですね。」1年次に中退。人生最大の挫折を味わった。

その後、さまざまな仕事を経験し、28歳から電気工事士として約40年間働いたが、若い頃に掲げた目標を忘れることがどうしてもできなかった。

「中途半端に諦めてしまっただことに対して、ずっと後悔していました。過去は振り返らず、もう一度やってみようと思ったんです。」放送局の無線従事者に求められる、超難関国家資格『第一級総合無線通信士』の取得を目指し、挑戦が始まった。

その第一歩として選んだのが定時制高校への入学。高校数学・英語・電気物理の学力底上げに狙いを定めた。平日は、朝から夕方までの授業開始の直前まで予習・復習に励み、休日は終日仕事。たゆまず、惜しまず努力する日々を重ねた。「年齢による物覚えの悪さをカバーするため、人の10倍勉強する意気込みで頑張りました。」その努力は、1年次から常に成績優良という形で実を結ぶ。学業だけではない。10代ばかりの同級生たちに臆すること

なく、学校行事にも積極的に参加。そして、誰よりも早く登校しては、進んで教室の清掃をした。すると、その姿を目にした若い生徒たちが一人、また一人と協力をはじめ、自然とその輪が広がった。生徒だけではない、教職員からもいっしょに敬われ、慕われる存在に。

卒業後は資格取得をより現実的なものとするため、大学進学を目指して勉強していく。「目標までの道のりはまだまだ長いですが、挑戦する日々には充実感を感じています。」一念岩をも通す。挑戦に年齢の壁など一切ない。将来への希望あふれる青年時代には、少なくとも一度破れた夢。半世紀越しの実現に向けてその歩みを止めることはない。(完)

